23（にさん）が60（ろくまる）読書レビュー応募用紙（中学生）

1番心に残った □人物 ☑言葉 □場面 □その他

（多様性について考える）

感想

僕がこの本を読んで、「多様性は、うんざりするほど大変だし、めんどくさいけど、無知を減らすからいいことなんだと母ちゃんは思う」という言葉が心に残った。
多様性について深く考えることができ、自分は意識していなくても、相手を傷つけてしまっていることがあるとわかった。例えば、「ハーフ」という言葉で傷ついている人がいるということにおどろいた。日本と外国では多様性に対しての考え方が違うということに衝撃を受けた。これからの人生で、様々な人とお会い、関わっていくなかで、できる限りではあるが、相手を傷つけないように考えて言葉を発していきたいと思う。考え方の違う人とも、お互いに理解し、認め合い、世界中の人が生きやすいと思える世の中になるように、まずは自分が行動しようと思う。

学校名	高松市立牟礼中学校
氏名（学年）	石川　大翔（2年）
書名	ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー
著者／出版社	ブレディみかこ/新潮文庫

23（にさん）が60（ろくまる）読書レビュー応募用紙（中学生）

1番心に残った □人物 ☑言葉 □場面 □その他

（「あやまちはくりかえしませんから」）

感想 私は「ある晴れた夏の朝」という本を読みました。この本は日本の長崎と広島に落とされた原爆の話です。主人公のメイは母親が日本人、父親がアメリカ人の日系アメリカ人です。メイは様々な民族のアメリカ人の高校生5人と原爆投下は本当に必要だったのか原爆肯定派と原爆否定派に分かれて討論しています。

私はこの本を読む前は原爆否定派でした。ですが、アメリカが日本に原爆を落とした理由は日本に攻撃されたことへのリベンジなど、様々な理由も考えられ、すべてアメリカが悪かったわけではないのではと肯定派の意見を読んで思いました。私が1番心に残ったのは原爆死没者のための慰霊碑に刻まれた「あやまちはくりかえしませんから」という言葉です。理由は、この言葉の主語は日本人でもアメリカ人でもなく「人類」ということに驚いたからです。

私はこの本を読み終わっても原爆否定派という考えは変わりませんでしたが、原爆落下の背景についてたくさんのことを考えることができました。社会の先生が言っていた、自分たちがした悪いことよりもされた悪いことの方が記憶に残るという言葉は本当だなと思いました。原爆や人権差別、世界の平和についてなど、この本で学んだことをこれからも考えていきたいと思いました。

学校名	高松市立牟礼中学校
氏名（学年）	宮﨑　楓（2年）
書名	ある晴れた夏の朝
著者／出版社	小手鞠るい／偕成社